

男女共同参画に関する
WEBアンケート調査報告書

令和7（2025）年1月
行田市

目次

I アンケート調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査方法	2
(1) 調査対象者、(2) 調査期間、(3) 調査の実施方法、(4) 回答数	
3. 注意点	2
II アンケート調査の結果	3-21
1. 回答者の属性（選択式）	3-5
(1) 年齢、(2) 性別、(3) 住まい、(4) 職業、(4-1)就労していない理由、(5) 婚姻状況、 (5-1)配偶者・パートナーの職業、(6) 世帯	
2. 男女平等の状況（選択式）	6-8
(1) 男女の地位の平等(a)家庭生活（家事・育児・介護等）、(b)職場、(c)学校教育の場、(d)政治の場、 (e)法律や制度上、(f)社会通念・習慣・しきたりなど、(g)地域活動の場（自治会やPTA等）、 (h)社会全体として	
3. 家庭生活（選択式）	9-13
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方、(1-1)賛成と思う理由、(1-2)反対と思う理由、 (2) 家庭での役割分担(a)育児（子どもの世話、しつけ、教育など）、(b)介護、(c)育児・介護以外の家事 (3) 男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的にたずさわるために必要な事項(4)育児や介護、家事に女性 の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因と考えられて いることについて	
4. 地域活動（自治会やPTA活動等）（選択式）	14-15
(1) 地域活動で参加している、または経験したことがあるもの、(2) 女性が地域リーダーになるために最も必要 な事項	
5. DV等（選択式）	16-19
(1) 次の暴力行為を受けたことがあるか(a)セクシュアル・ハラスメント、(b)夫(妻)や恋人など身近な人からの 身体的暴力、(c)夫(妻)や恋人など身近な人からの精神的暴力、(d)夫(妻)や恋人など身近な人からの性的暴力、 (e)ストーカー行為、(2) 暴力行為を受けた際の相談の有無、(2-1)相談した人・場所、(2-2)相談できなかった 理由に一番近いもの、(3) 暴力防止を図るために最も必要な取組	
6. 人権（選択式）	20
(1) 「LGBT」という言葉、(2) 性的少数者に対する配慮	
7. 男女共同参画の推進（選択式）	21
(1) 市が男女共同参画推進のために力を入れるべき施策	
III 使用した調査票	22-30

I アンケート調査の概要

1. 調査の目的

市では、一人ひとりが性別に関わらず、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現するための指針として、「ぎょうだ男女共同参画プラン」を策定しています。この調査は、皆さまに男女共同参画に関するお考えやご意見をお伺いし、今後の計画改定の基礎とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

行田市在住・在勤・在学の方

(2) 調査期間

令和6年11月15日（金曜日）から12月2日（月曜日）までの18日間

(3) 調査の実施方法

WEBアンケート方式（行田市電子申請・届出サービスによる回答）

(4) 回答数

292件（すべてWEBアンケートによる回答）

3. 注意点

- 各設問の母数（調査の元になる数）は、（n＝）で表記しています。
- 構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ず100とならない場合があります。
- その他の内訳はできる限り原文のまま記載していますが、アンケート全体で統一するため、一部表現を修正しています。

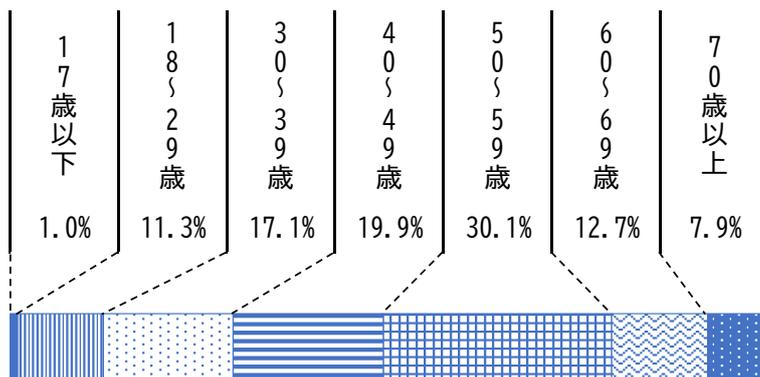
II アンケート調査の結果

1. 回答者の属性

(1)年齢（選択式） [回答必須]

(n=292)

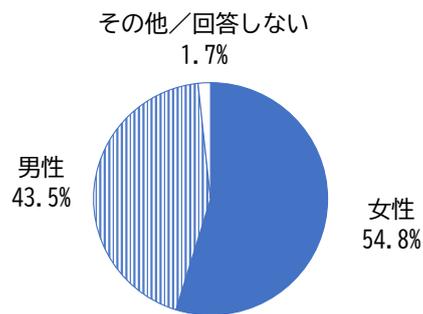
	回答数	構成比
17歳以下	3	1.0%
18～29歳	33	11.3%
30～39歳	50	17.1%
40～49歳	58	19.9%
50～59歳	88	30.1%
60～69歳	37	12.7%
70歳以上	23	7.9%



(2)性別（選択式） [回答必須]

(n=292)

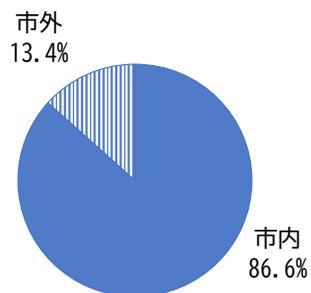
	回答数	構成比
女性	160	54.8%
男性	127	43.5%
その他/回答しない	5	1.7%



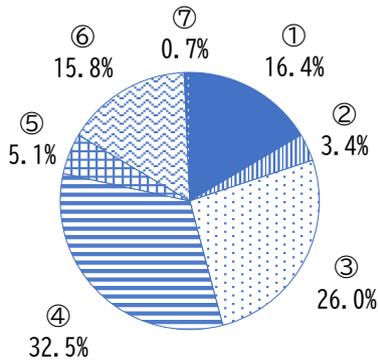
(3)住まい（選択式） [回答必須]

(n=292)

	回答数	構成比
市内	253	86.6%
市外	39	13.4%



(4)職業（選択式） 【回答必須】



(n=292)

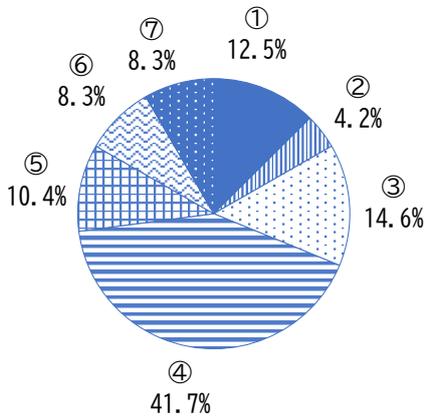
	回答数	構成比
① 職業を持っていない (専業主婦、専業主夫、無職等)	48	16.4%
② 学生	10	3.4%
③ 会社員、団体職員	76	26.0%
④ 公務員、教職員	95	32.5%
⑤ 自営業	15	5.1%
⑥ パート、アルバイト、派遣社員、内職等	46	15.8%
⑦ その他	2	0.7%

【その他の内訳】

- ・ 年金受給者。
- ・ 無職。

(4-1)就労していない理由（選択式） 【回答必須】

(4)で①と回答した方に、就労していない理由について、7つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



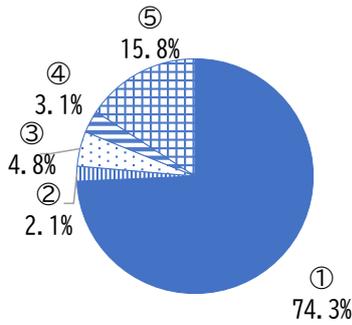
(n=48)

	回答数	構成比
① 出産・育児のため	6	12.5%
② 介護のため	2	4.2%
③ 自分に合う仕事が見つからない	7	14.6%
④ 定年のため	20	41.7%
⑤ 健康上の理由のため	5	10.4%
⑥ 特に就労しようとは思わない	4	8.3%
⑦ その他	4	8.3%

【その他の内訳】

- ・ 介護のため退職から定年に到達。
- ・ 妊活のため。
- ・ 障害者のため。
- ・ 仕事で不在の配偶者と、将来設計に関する事など、話し合いができないため。

(5)婚姻状況（選択式）【回答必須】

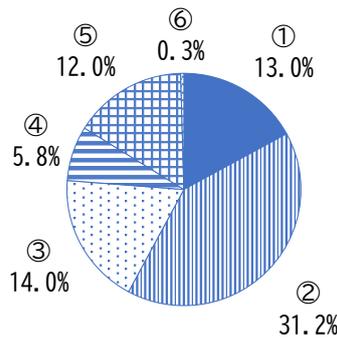


(n=292)

	回答数	構成比
① 結婚している	217	74.3%
② 結婚していないがパートナーと暮らしている	6	2.1%
③ 離別	14	4.8%
④ 死別	9	3.1%
⑤ 未婚	46	15.8%

(5-1)配偶者・パートナーの職業（選択式）【回答必須】

(5)で①または②と回答した方に、配偶者・パートナーの職業について、6つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

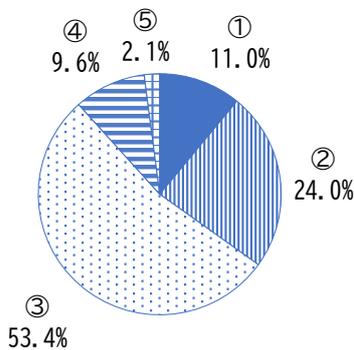


(n=223)

	回答数	構成比
① 職業を持っていない (専業主婦、専業主夫、無職等)	38	13.0%
② 会社員、団体職員	91	31.2%
③ 公務員、教職員	41	14.0%
④ 自営業	17	5.8%
⑤ パート、アルバイト、 派遣社員、内職等	35	12.0%
⑥ その他	1	0.3%

【その他の内訳】
・知らない

(6)世帯（選択式）【回答必須】



(n=292)

	回答数	構成比
① 1人暮らし	32	11.0%
② 夫妻のみ・本人とパートナーのみ	70	24.0%
③ 2世代世帯【自分(夫妻)と子ども、自分(夫妻)と親 など】	156	53.4%
④ 3世代世帯【親と自分(夫妻)と子ども、自分(夫妻)と子どもと孫 など】	28	9.6%
⑤ その他	6	2.1%

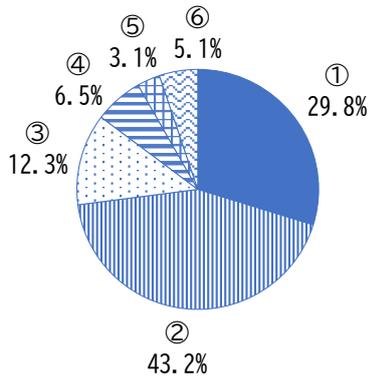
【その他の内訳】
 ・（独身のため）親ときょうだいと自分。
 ・両親と姉弟。
 ・自分の両親。
 ・自分と親と妹と甥と姪。
 ・個人情報に当たるので無回答。
 ・夫妻と子ども。

2. 男女平等の状況

(1) 男女の地位の平等感（選択式） 【回答必須】

家庭生活や職場など計8項目の男女の地位の平等感について、6つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

(a) 家庭生活（家事・育児・介護等）

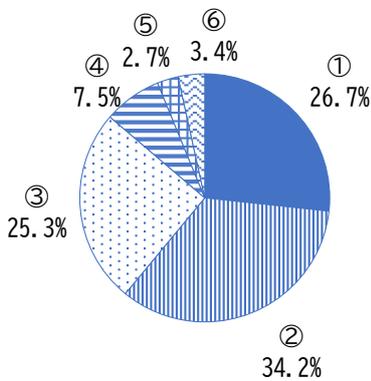


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	87	29.8%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	126	43.2%
③ 平等	36	12.3%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	19	6.5%
⑤ 女性の方が優遇されている	9	3.1%
⑥ わからない	15	5.1%

・ “①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている” と回答した方が合計で72.95%となっています。

(b) 職場

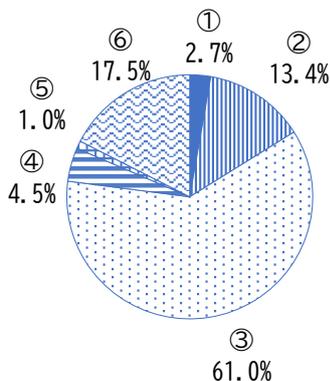


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	78	26.7%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	100	34.2%
③ 平等	74	25.3%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	7.5%
⑤ 女性の方が優遇されている	8	2.7%
⑥ わからない	10	3.4%

・ “①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている” と回答した方が合計で60.96%となっています。

(c) 学校教育の場

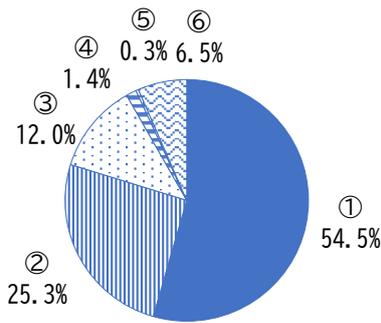


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	8	2.7%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	39	13.4%
③ 平等	178	61.0%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	13	4.5%
⑤ 女性の方が優遇されている	3	1.0%
⑥ わからない	51	17.5%

・ 6割を超える方が “③平等” と回答しています。

(d)政治の場

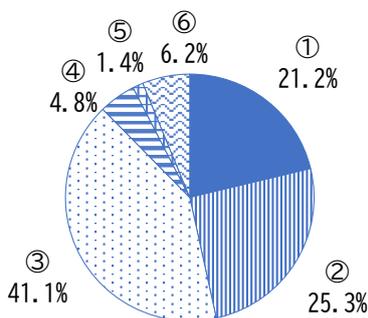


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	159	54.5%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	74	25.3%
③ 平等	35	12.0%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	1.4%
⑤ 女性の方が優遇されている	1	0.3%
⑥ わからない	19	6.5%

・ “①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている” と回答した方が合計で 79.79%となっています。

(e)法律や制度上

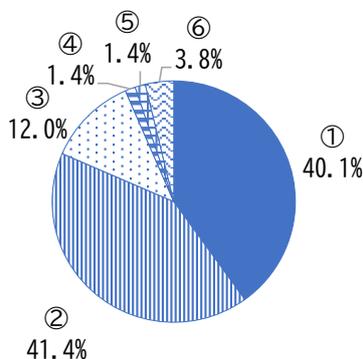


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	62	21.2%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	74	25.3%
③ 平等	120	41.1%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	14	4.8%
⑤ 女性の方が優遇されている	4	1.4%
⑥ わからない	18	6.2%

・ “③平等” と回答した方が4割を超える一方、半数近くの方が “①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている” と回答しています。

(f)社会通念・習慣・しきたりなど

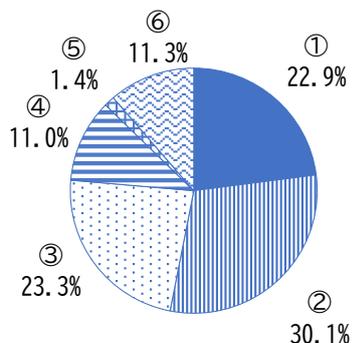


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	117	40.1%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	121	41.4%
③ 平等	35	12.0%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	1.4%
⑤ 女性の方が優遇されている	4	1.4%
⑥ わからない	11	3.8%

・ “①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている” と回答した方が合計で 81.51%となっています。

(g) 地域活動の場（自治会やPTA等）

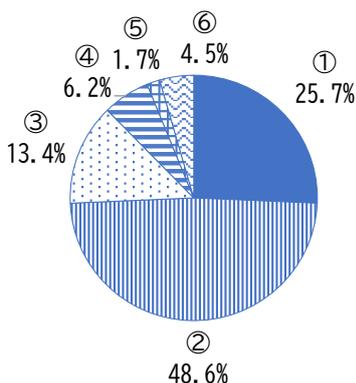


(n=292)

	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	67	22.9%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	88	30.1%
③ 平等	68	23.3%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	32	11.0%
⑤ 女性の方が優遇されている	4	1.4%
⑥ わからない	33	11.3%

・半数以上の方が“①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている”と回答しています。

(h) 社会全体として



(n=292)

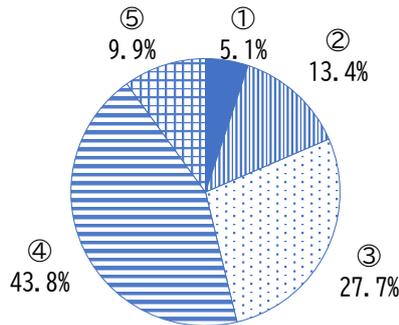
	回答数	構成比
① 男性の方が優遇されている	75	25.7%
② どちらかといえば男性の方が優遇されている	142	48.6%
③ 平等	39	13.4%
④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	18	6.2%
⑤ 女性の方が優遇されている	5	1.7%
⑥ わからない	13	4.5%

・“①男性の方が優遇されている” “②どちらかといえば男性の方が優遇されている”と回答した方が合計で74.32%となっています。

3. 家庭生活

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方（選択式） 【回答必須】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、5つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



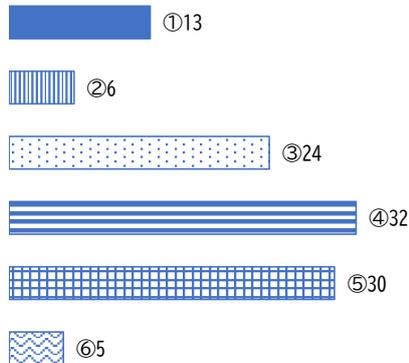
(n=292)

	回答数	構成比
① 賛成	15	5.1%
② どちらかといえば賛成	39	13.4%
③ どちらかといえば反対	81	27.7%
④ 反対	128	43.8%
⑤ わからない	29	9.9%

・ “①賛成” “②どちらかといえば賛成” と回答した方が合計で18.49%、 “③反対” “④どちらかといえば反対” と回答した方が合計で71.58%となっています。

(1-1). 賛成と思う理由（選択式） 【回答必須】

(1)で①または②と回答した方に、賛成と思う理由について、6つの選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでいただきました。



(n=110)

	回答数	構成比
① 日本の伝統的な家族の在り方だと思っから	13	11.8%
② 自分の両親も役割分担をしていたから	6	5.5%
③ 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思っから	24	21.8%
④ 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思っから	32	29.1%
⑤ 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思っから	30	27.3%
⑥ その他	5	4.5%

【その他の内訳】

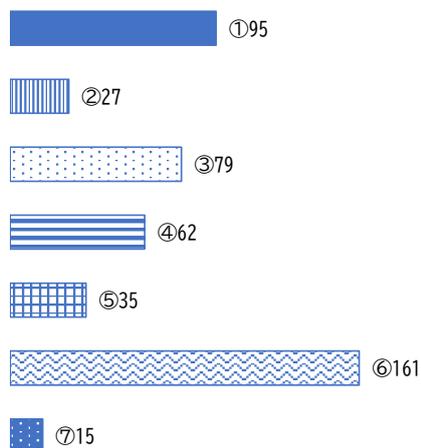
- ・ただ、一馬力だと家計に入る収入が少ないため、女性が経済的DVを受ける傾向が高いと感じる。
- ・私感。
- ・悔しいが妻の方が子育てに向いていると感じることが多いから。
- ・夫妻のどちらか一方の収入だけで生活できる社会が望ましい。夫妻のどちらが家にいても良い。
- ・それぞれの特性を活かして、役割分担した方が効率的 男女の平等に拘り過ぎると逆に非効率でお互いストレスになる拘りたい人が拘れば良いと思います。人生、環境、職業、子持ち、独身で、それぞれのステージでも、平等の種類は変わる。拘り過ぎて選択肢が無い事は、幸せと言えない。

・ “④妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思っから” と回答した方が32名と最も多く、次いで “⑤育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思っから” “③夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思っから” の順で高い水準となっています。

(1-2). 反対と思う理由（選択式） [回答必須]

(1)で③または④と回答した方に、反対と思う理由について、7つの選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでいただきました。

(n=474)



	回答数	構成比
① 男女平等に反すると思うから	95	20.0%
② 自分の両親も外で働いていたから	27	5.7%
③ 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	79	16.7%
④ 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	62	13.1%
⑤ 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	35	7.4%
⑥ 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	161	34.0%
⑦ その他	15	3.2%

【その他の内訳】

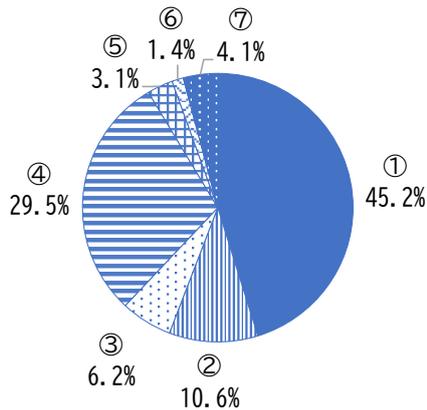
- ・ その家族や生活単位によって、最適と思われる生活スタイルは異なると思うから。
- ・ あらゆる適性は人それぞれであるから・才能に合わせて働けば良いと思う。
- ・ なぜ自分のやることを性別で分けられなければならないのかわからない。
- ・ 個人の能力は男女関係ない。
- ・ 昔と今の働き方はかなり違うし多様化してる。賛成か反対かはもう一般的ではない。
- ・ 家庭は夫婦で守るものだから。
- ・ 自分達も共働きだったから。
- ・ 共働きしないと収入的にやっていけないから仕方なく。
- ・ その家の状況で働きたければ働けば良いと思う。
- ・ 妻が働くか家庭を守るかは各家庭で考えることだと思うから。
- ・ 平等では無いと思うが、伝統やしきたり、体力的なことを含むと男仕事、女仕事の役割りがあるから。
- ・ 「夫だから」「妻だから」と印象付けるのはよくないと思うから。
- ・ でも家庭内の家事と仕事学校のPTAの両立は本当に大変です。

・ “⑥固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから”と回答した方が161名と最も多く、次いで“①男女平等に反すると思うから” “③夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから”の順で高い水準となっています。

(2)家庭での役割分担（選択式） 【回答必須】

育児、介護、育児・介護以外の家事の3項目の家庭での役割分担について、7つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

(a)育児（子どもの世話、しつけ、教育など）

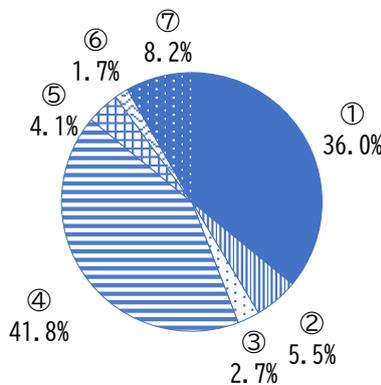


(n=292)

	回答数	構成比
① 互いに半々	132	45.2%
② 自分が多くを担う	31	10.6%
③ 配偶者が多くを担う	18	6.2%
④ 外部サービスを利用しながら互いに半々	86	29.5%
⑤ 外部サービスを利用しながら自分が多くを担う	9	3.1%
⑥ 外部サービスを利用しながら配偶者が多くを担う	4	1.4%
⑦ その他	12	4.1%

・ “①互いに半々” “④外部サービスを利用しながら互いに半々” と回答した方が合計で74.66%となっています。

(b)介護

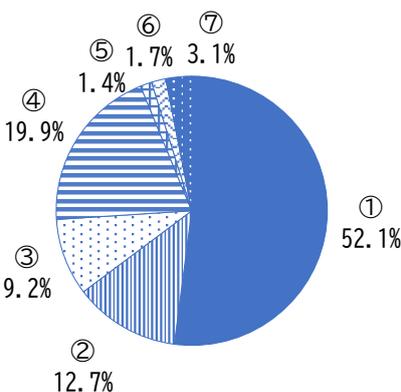


(n=292)

	回答数	構成比
① 互いに半々	105	36.0%
② 自分が多くを担う	16	5.5%
③ 配偶者が多くを担う	8	2.7%
④ 外部サービスを利用しながら互いに半々	122	41.8%
⑤ 外部サービスを利用しながら自分が多くを担う	12	4.1%
⑥ 外部サービスを利用しながら配偶者が多くを担う	5	1.7%
⑦ その他	24	8.2%

・ “①互いに半々” “④外部サービスを利用しながら互いに半々” と回答した方が合計で77.74%となっています。

(c)育児・介護以外の家事



(n=292)

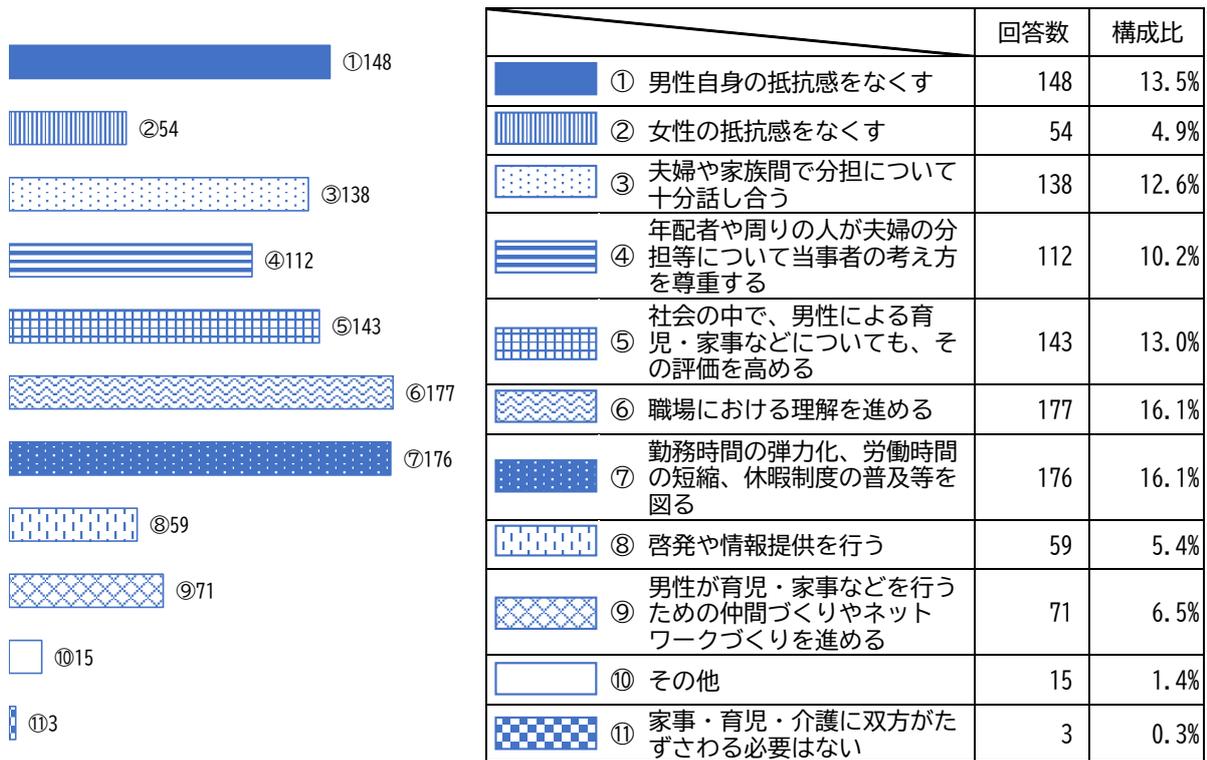
	回答数	構成比
① 互いに半々	152	52.1%
② 自分が多くを担う	37	12.7%
③ 配偶者が多くを担う	27	9.2%
④ 外部サービスを利用しながら互いに半々	58	19.9%
⑤ 外部サービスを利用しながら自分が多くを担う	4	1.4%
⑥ 外部サービスを利用しながら配偶者が多くを担う	5	1.7%
⑦ その他	9	3.1%

・ “①互いに半々” “④外部サービスを利用しながら互いに半々” と回答した方が合計で71.92%となっています。

(3)男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的にたずさわるために必要な事項（選択式）【回答必須】

男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的にたずさわるために必要な事項について、11個の選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでいただきました。

(n=1096)



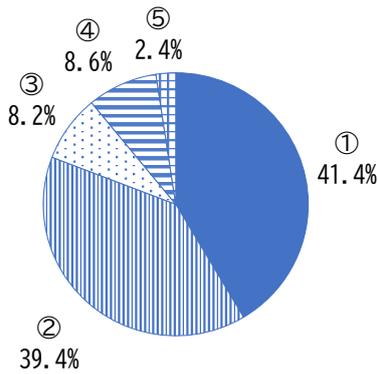
【その他の内訳】

- ・企業や管理者側がその価値を認め、そうした活動へ参加することに対して嫌な顔をしない、支援する。
- ・家事や介護は男女とも平等な対応ができるが、育児はホルモンの関係もあることから女性が望ましいと考える。
- ・男性社員の育休取得が社会全体で当たり前の考えになること。
- ・男性が女性の入浴介助は必ずといっていい程女性にと言われます。今は知的障害の方のお世話に携わっております。
- ・金銭的に余裕のある社会にする必要がある。
- ・意識。やれることをやる。忙しい、時間がない、そんなことはない、全部言い訳。
- ・自治会やPTAは、当番ではなく仕事として雇えば良い。
- ・自治会やPTAに参加した際、男性という理由で重要な役割を押し付けられない配慮が必要。
- ・自身の共同参画を望まない女性が多くいるため女性自身が変わらないとダメ。
- ・政治が良くなって懐が温くなる事で余裕が出れば積極的に出ることが出来る。
- ・収入の減少を無くす。
- ・今迄の古い慣習をなくす。
- ・参加者に対して、国の補助金制度を確立させる。
- ・自治会長が男で自営業だから女性軽視が酷い。
- ・積極的に携わるどころではなく、今やるべきことやって欲しいことに気付いて動いてくれるほうがいい。

・“⑥職場における理解を進める”と回答した方が177名と最も多く、次いで“⑦勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、休暇制度の普及等を図る”“①男性自身の抵抗感をなくす”の順で高い水準となっています。

(4) 育児や介護、家事に女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因と考えられていること（選択式）【回答必須】

育児や介護、家事に女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因と考えられていることについて、5つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



(n=292)

	回答数	構成比
① そう思う	121	41.4%
② どちらかといえばそう思う	115	39.4%
③ どちらかといえばそう思わない	24	8.2%
④ そう思わない	25	8.6%
⑤ その他	7	2.4%

【その他の内訳】

- ・ 育児については、体のホルモンの関係から女性が望ましいと考える。
- ・ 要因はそれだけではないと思う。
- ・ 別問題。女性が職業生活をした場合にサポートしない男性が多すぎるだけ。家事なんて男性の方が向いている。
- ・ その家その家の状況で臨機応変に対応すべき。
- ・ 単身の女性も多くなっているから、それだけの要因ではないと思う。
- ・ どちらかというと思うに近いが、それだけでなく、女性自身出世を望んでいないこともあるように思う。
- ・ 女性の職場への活躍が進まなくても良い。

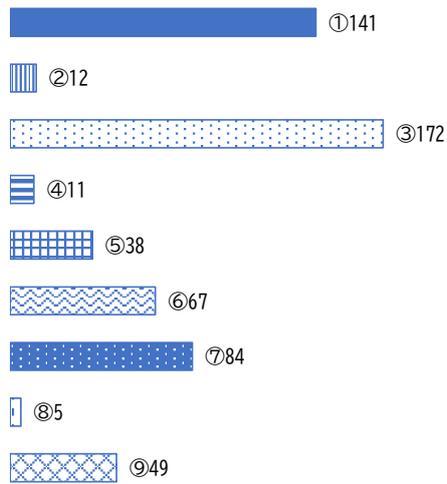
・ “①そう思う” “②どちらかといえばそう思う” と回答した方が合計で80.82%となっています。

4. 地域活動（自治会やPTA活動等）

(1) 地域活動で参加している、または経験したことがあるもの（選択式） 【回答必須】

地域活動で参加している、または経験したことがあるものについて、9つの選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでいただきました。

(n=579)



	回答数	構成比
① PTAや子ども会	141	24.4%
② 婦人会や男女共同参画に関する団体	12	2.1%
③ 町内会や自治会	172	29.7%
④ 老人クラブや高齢者の会	11	1.9%
⑤ NPOやボランティアなど公益的な活動	38	6.6%
⑥ 教養・趣味の団体・サークル	67	11.6%
⑦ スポーツの団体・グループ	84	14.5%
⑧ その他	5	0.9%
⑨ 参加したことがない	49	8.5%

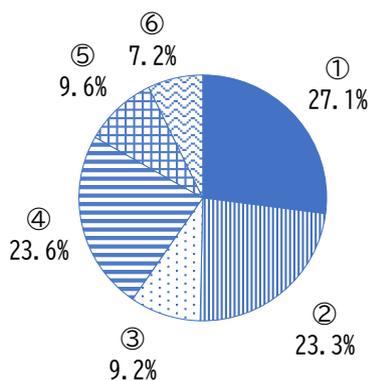
【その他の内訳】

- ・ 地域の子供を対象にしたお囃子会。
- ・ いきいき元気サポートボランティアなど生活費用に支障があり、できませんでした。
- ・ 行田市の行事。
- ・ 職業に関連する団体。
- ・ 神社氏子会の年番。

・ “③町内会や自治会”と回答した方が172名と最も多く、次いで“①PTAや子ども会” “⑦スポーツの団体・グループ”の順で高い水準となっています。

(2)女性が地域リーダーになるために最も必要な事項（選択式）【回答必須】

女性が地域リーダーになるために最も必要な事項について、6つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



(n=292)

	回答数	構成比
① 女性自身の抵抗感をなくすこと	79	27.1%
② 男性の抵抗感をなくすこと	68	23.3%
③ 啓発や情報提供・研修を行うこと	27	9.2%
④ 女性が一定の割合でなるような取組を進めること	69	23.6%
⑤ その他	28	9.6%
⑥ 特にない	21	7.2%

【その他の内訳】

- ・参加できる時間があるような労働時間になること。
- ・女性自身と男性の抵抗感をなくすこと。
- ・全ての人がリーダーに性別を意識しないようになる。
- ・女性が地域活動に参加できる時間を設けられるよう、労働時間や家事労働の負担を減らすべきだと思う。
- ・地域では、男女ともにリーダーは男性がやる雰囲気がある。女性もやらなくていいとの考えがある。
- ・男性、女性ともに抵抗感をなくすこと。
- ・別にリーダーにならなくていい。
- ・人の事を大事に大切に思う事、児童の養子縁組が近所は沢山いましたが、家族はもらいっ子などの評判をはねのけ（文字数制限）
- ・女性の負担を減らすこと。余裕がなければ出来ないし、続きません。
- ・優秀なら性別は問わない。
- ・女性の家事、育児の負担軽減。
- ・能力があるのに女性だからという理由で外すのは違うと思うが、一定の割合になるよう能力リーダーにするのはお門違い。
- ・男性の意識改善。
- ・能力を認める環境。
- ・もしまだ女性がリーダーになれない環境があるならば、変なルールや古いしきたりのせい。変化を恐れる高齢者（文字数制限）
- ・いまだに存在している女性部を無くすこと。
- ・本当に必要なのかを考える時が来ている。
- ・男性自体の抵抗感を無くすことと女性はサポート役と言う固定観念を無くさなければならない。
- ・ボランティアではなく仕事として、雇えば良い。
- ・リーダーになった人に全ての負担を背負わせずみんなで作る事を協力的なサポート体制をとる。
- ・個人の意識次第でいかようにもなると思います。
- ・自治会やPTAは必要ない。
- ・一人の人間として視野が広く公平さを持ち尊敬される「人柄」が大切だと思う。
- ・無理になる必要がない。
- ・今迄の古い慣習をなくす。
- ・男女平等の意識が根付かないと実現しない。
- ・地域活動に取り組めるよう、家庭における役割や仕事の負担が減ること。

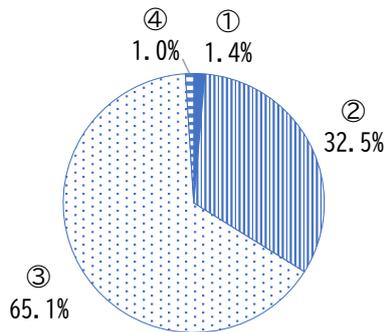
・“①女性自身の抵抗感をなくすこと”と回答した方が27.05%と最も多く、ほとんど同じ水準で“④女性が一定の割合でなるような取組を進めること”“②男性の抵抗感をなくすこと”が続いています。

5. DV等

(1) 次の暴力行為を受けたことがあるか（選択式）【回答必須】

セクシュアル・ハラスメントやDVに関する計5項目について、4つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

(a) セクシュアル・ハラスメント

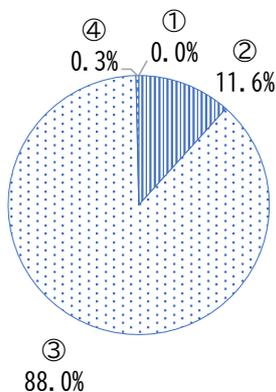


(n=292)

	回答数	構成比
① たびたび受けている	4	1.4%
② 以前に受けたことがある	95	32.5%
③ 受けたことがない	190	65.1%
④ 言葉がわからない	3	1.0%

・ “①たびたび受けている” “②以前に受けたことがある” と回答した方が合計で33.90%となっています。

(b) 夫(妻)や恋人など身近な人からの身体的暴力

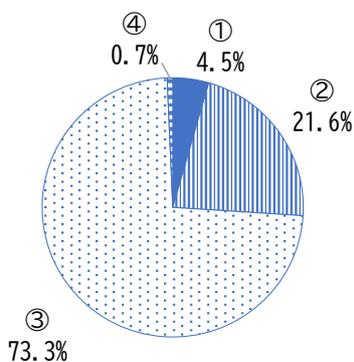


(n=292)

	回答数	構成比
① たびたび受けている	0	0.0%
② 以前に受けたことがある	34	11.6%
③ 受けたことがない	257	88.0%
④ 言葉がわからない	1	0.3%

・ “①たびたび受けている” と回答した方はなく、“②以前に受けたことがある” と回答した方が11.64%となっています。

(c) 夫(妻)や恋人など身近な人からの精神的暴力

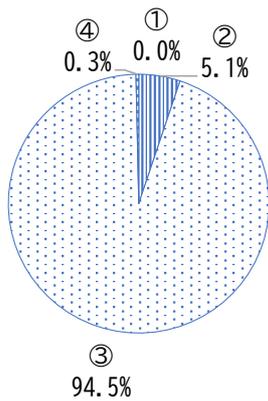


(n=292)

	回答数	構成比
① たびたび受けている	13	4.5%
② 以前に受けたことがある	63	21.6%
③ 受けたことがない	214	73.3%
④ 言葉がわからない	2	0.7%

・ “①たびたび受けている” “②以前に受けたことがある” と回答した方が合計で26.03%となっています。

(d)夫(妻)や恋人など身近な人からの性的暴力

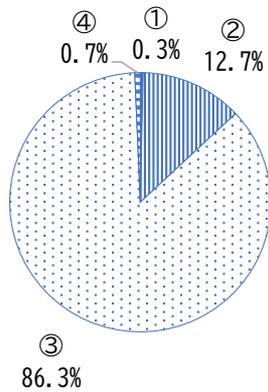


(n=292)

	回答数	構成比
① たびたび受けている	0	0.0%
② 以前に受けたことがある	15	5.1%
③ 受けたことがない	276	94.5%
④ 言葉がわからない	1	0.3%

・ “①たびたび受けている” と回答した方はなく、“②以前に受けたことがある” と回答した方が5.14%となっています。

(e)ストーカー行為



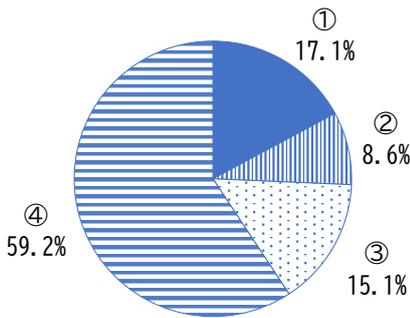
(n=292)

	回答数	構成比
① たびたび受けている	1	0.3%
② 以前に受けたことがある	37	12.7%
③ 受けたことがない	252	86.3%
④ 言葉がわからない	2	0.7%

・ “①たびたび受けている” “②以前に受けたことがある” と回答した方が合計で13.01%となっています。

(2)暴力行為を受けた際の相談の有無（選択式） 【回答必須】

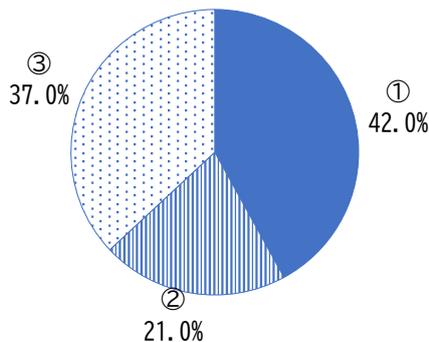
暴力行為を受けた際の相談の有無について、4つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



(n=292)

	回答数	構成比
① 相談した	50	17.1%
② 相談したかったが、できなかった	25	8.6%
③ 相談しようとは思わなかった	44	15.1%
④ 暴力行為を受けたことがない	173	59.2%

“④暴力行為を受けたことがない”を除いた結果は以下のとおりです。



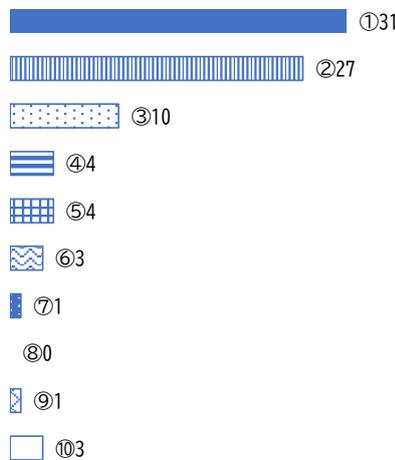
(n=119)

	回答数	構成比
① 相談した	50	42.0%
② 相談したかったが、できなかった	25	21.0%
③ 相談しようとは思わなかった	44	37.0%

・ “④暴力行為を受けたことがない”と回答した方は59.25%であり、暴力行為を受けたことがあると回答した方のうち、42.02%が誰かに相談したと回答しています。

(2-1)相談した人・場所（選択式） 【回答必須】

(2)で①と回答した方に、相談した人・場所について、10個の選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでいただきました。



(n=84)

	回答数	構成比
① 家族・親戚	31	36.9%
② 友人・知人	27	32.1%
③ 警察	10	11.9%
④ 行田市の相談窓口・電話相談など	4	4.8%
⑤ 行田市以外の公的機関	4	4.8%
⑥ 医師・カウンセラー	3	3.6%
⑦ 民生委員	1	1.2%
⑧ 人権擁護委員	0	0.0%
⑨ 弁護士	1	1.2%
⑩ その他	3	3.6%

【その他の内訳】

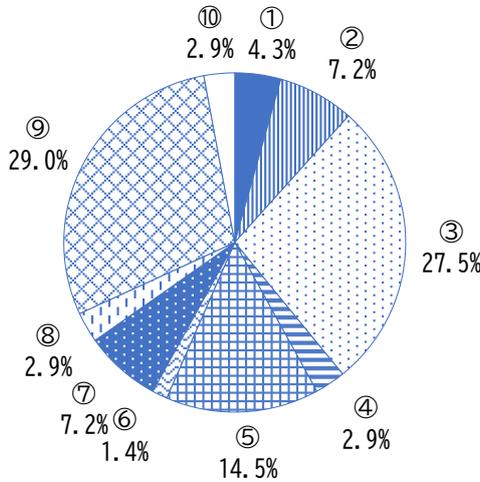
- ・ 昔は民生委員の方がよく寄ってくれたので、今は何故か警察関係の親族の方と知り合う事が増えた。
- ・ 職場の上司、同僚。
- ・ 職場の保健師。

・ “①家族・親戚”と回答した方が31名と最も多く、“②友人・知人”が続いています。

(2-2)相談できなかった理由に一番近いもの（選択式）【回答必須】

(2)で②または③と回答した方に、相談できなかった理由に一番近いものについて、10個の選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

(n=69)



	回答数	構成比
① 誰に相談したらよいかわからなかったから	3	4.3%
② 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	5	7.2%
③ 相談しても無駄だと思ったから	19	27.5%
④ 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから	2	2.9%
⑤ 自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから	10	14.5%
⑥ 世間体が悪いから	1	1.4%
⑦ 他人を巻き込みたくないから	5	7.2%
⑧ 自分に悪いところがあると思ったから	2	2.9%
⑨ 相談するほどのことではないと思ったから	20	29.0%
⑩ その他	2	2.9%

【その他の内訳】

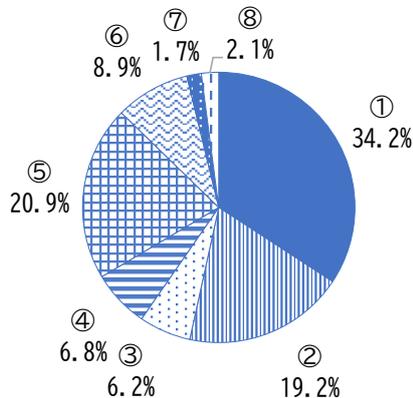
- ・30年前は当たり前にあったから。
- ・自分で解決できることだから。

・“⑨相談するほどのことではないと思ったから”と回答した方が28.99%と最も多く、次いで“③相談しても無駄だと思ったから”“⑤自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから”の順で高い水準となっています。

(3)暴力防止を図るために最も必要な取組（選択式）【回答必須】

暴力防止を図るために最も必要な取組について、8つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

(n=292)



	回答数	構成比
① 学校教育の充実	100	34.2%
② 家庭教育の充実	56	19.2%
③ 行政による学習機会の提供	18	6.2%
④ 被害者相談や加害者へのカウンセリングの充実	20	6.8%
⑤ 性犯罪の取り締まりの強化	61	20.9%
⑥ TVやインターネットなどのメディアの適切な利用方法の学習機会の提供	26	8.9%
⑦ その他	5	1.7%
⑧ わからない	6	2.1%

【その他の内訳】

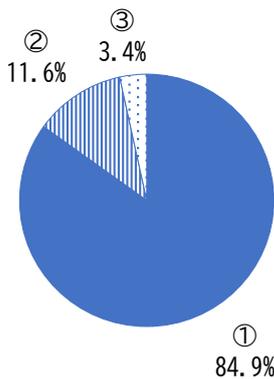
- ・選択肢のすべて必要。
- ・性犯罪者の指名公開。トイレ全体を男女共同にしているトイレを廃止。
- ・刑の厳罰化、暴力の定義拡大。
- ・絶対義務教育の場の充実。誰もが行う義務教育での教養。選択できる場の充実を図ってもまず集まらない。
- ・罰則の厳重化 日本は軽すぎる。

・“①学校教育の充実”と回答した方が34.25%と最も多く、次いで“⑤性犯罪の取り締まりの強化”“②家庭教育の充実”の順で高い水準となっています。

6. 人権

(1) 「LGBT」という言葉（選択式） 【回答必須】

「LGBT」という言葉について、3つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



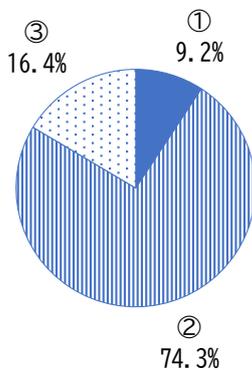
(n=292)

	回答数	構成比
① 言葉の意味を知っている	248	84.9%
② 聞いたことはあるが、言葉の意味まではよくわからない	34	11.6%
③ 聞いたことがない	10	3.4%

・ “②聞いたことはあるが、言葉の意味まではよくわからない” “③聞いたことがない” と回答した方が合計で15.07%となっています。

(2) 性的少数者に対する配慮（選択式） 【回答必須】

性的少数者に対する配慮について、3つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。



(n=292)

	回答数	構成比
① 十分に配慮されている	27	9.2%
② 配慮されていると思う時がある	217	74.3%
③ まったく配慮されていない	48	16.4%

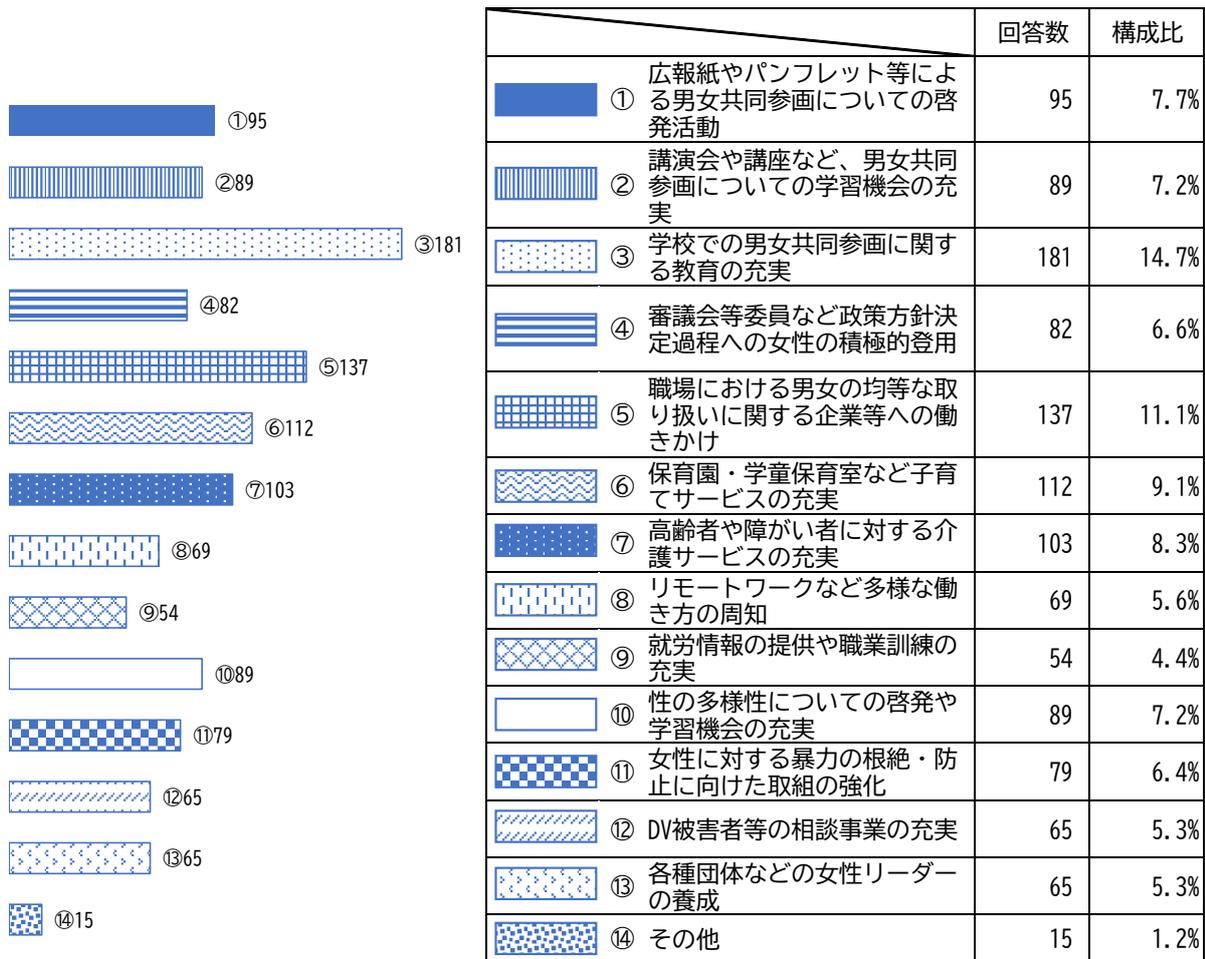
・ “①十分に配慮されている” “②配慮されていると思う時がある” と回答した方が合計で83.56%となっています。

7. 男女共同参画の推進

(1)市が男女共同参画推進のために力を入れるべき施策（選択式）【回答必須】

市が男女共同参画推進のために力を入れるべき施策について、14個の選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでいただきました。

(n=1235)



【その他の内訳】

- ・労働時間の短縮化、地域。
- ・家庭活動の価値の見直し、個人の選択を尊重する仕組み、週休3日制度の導入、時短勤務者への給与の改善、育休取得者への手当の改善、育児休暇や介護休暇の取得と理解の促進（それらは休暇と呼ばれるが休めるわけではないこと含めて）。
- ・減税と、給与を増やす。
- ・男女とも体のつくりが異なるため、すべて平等とはいかない。区別があるのは仕方ない。
- ・職場による。
- ・女性参画は必要ではない。
- ・優秀ならいい。性別は問わない。優秀でないのに性別で登用するのは反対。
- ・学校教諭等が起こした性犯罪については免許剥奪、過去に性犯罪歴がある人物は採用しない等、厳しい措置をとるべき。
- ・市の職員として、積極的に採用。
- ・まず知識と教養。そして環境。とにかく義務教育期間の子供主体で街づくりすること。そして還元できる場を提供すること。
- ・そもそも推進する必要があるのかわからない。個人の意識や考えや価値観に任せていいと思う。特に不平等は感じていない。選択しようとするれば誰でもいろいろ選べる時代だと思う。
- ・もっと違うところに税金を使うべき。
- ・無駄な事なので即刻解散するのが得策。防衛費より高く利権まみれの制度に用はない。
- ・至急に市の職員を男女半々にして、部課長も半々にする！市自ら範を垂れること。
- ・まずは地域（自治会等）から意識及び慣習を根本的に変える活動。
- ・必要性の少ない政策は予算の無駄 社会保障や子育て（英検や給食の復活等）に使って欲しい。

・ “③学校での男女共同参画に関する養育の充実”と回答した方が181名と最も多く、次いで“⑤職場における男女の均等な取り扱いに関する企業等への働きかけ” “⑥保育園・学童保育室など子育てサービスの充実”の順で高い水準となっています。

Ⅲ 使用した調査票

【男女平等の状況について】

Q 1

あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。

選択肢は次のとおりです。

【男性の方が優遇されている、どちらかといえば男性の方が優遇されている、平等、どちらかといえば女性の方が優遇されている、女性の方が優遇されている、わからない】

家庭生活（家事・育児・介護等） **必須**

選択してください

職場 **必須**

選択してください

学校教育の場 **必須**

選択してください

政治の場 **必須**

選択してください

法律や制度上 **必須**

選択してください

社会通念・習慣・しきたりなど **必須**

選択してください

地域活動の場（自治会やPTA等） **必須**

選択してください

社会全体として **必須**

選択してください

【家庭生活について】

Q2 **必須**

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 反対
- わからない

選択解除

Q2で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した場合

Q3 **選択肢の結果によって入力条件が変わります**

賛成と思うのはなぜですか。
あてはまるものをすべて選択してください。

- 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
- 自分の両親も役割分担をしていたから
- 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
- 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
- その他

Q2で「どちらかといえば反対」「反対」と回答した場合

Q4 **選択肢の結果によって入力条件が変わります**

反対と思うのはなぜですか。
あてはまるものをすべて選択してください。

- 男女平等に反すると思うから
- 自分の両親も外で働いていたから
- 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
- 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
- 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
- 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
- その他

Q 5

あなたは、次の家庭で担われている役割について、あなたと配偶者でどのように分担したいと思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。

なお、育児をしているしていない、配偶者がいるいないに関わらず、お答えください。

選択肢は次のとおりです。

【互いに半々、自分が多くを担う、配偶者が多くを担う、外部サービスを利用しながら互いに半々、外部サービスを利用しながら、自分が多くを担う、外部サービスを利用しながら配偶者が多くを担う、その他】

育児（子どもの世話、しつけ、教育など） 必須

選択してください

介護 必須

選択してください

育児・介護以外の家事 必須

選択してください

Q 6 必須

男性が家事・育児・介護地域活動（自治会やPTA等）に積極的にたずさわるためには、どのようなことが重要とお考えですか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 男性自身の抵抗感をなくす
- 女性の抵抗感をなくす
- 夫婦や家族間で分担について十分話し合う
- 年配者や周りの人が夫婦の分担等について当事者の考え方を尊重する
- 社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高める
- 職場における理解を進める
- 勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、休暇制度の普及等を図る
- 啓発や情報提供を行う
- 男性が育児・家事などを行うための仲間づくりやネットワークづくりを進める
- その他

家事・育児・介護に双方がたずさわる必要はない

Q 7 必須

育児や介護、家事に女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因と考えられていますが、あなたはこの意見についてどう思いますか。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- その他

選択解除

【地域活動（自治会やPTA活動等）について】

Q 8 必須

あなたは現在(今までに)、どのような活動に参加していますか(した経験がありますか)。あてはまるものをすべて選択してください。

- PTAや子ども会
- 婦人会や男女共同参画に関する団体
- 町内会や自治会
- 老人クラブや高齢者の会
- NPOやボランティアなど公益的な活動
- 教養・趣味の団体・サークル
- スポーツの団体・グループ
- その他

- 参加したことがない

Q 9 必須

あなたは、女性が地域活動（自治会やPTA等）のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが最も必要だと思うものをお答えください。

- 女性自身の抵抗感をなくすこと
- 男性の抵抗感をなくすこと
- 啓発や情報提供・研修を行うこと
- 女性が一定の割合でなるような取組を進めること
- その他

- 特になし

選択解除

【DV等について】

Q 1 0

あなたは、次の暴力行為を受けたことがありますか。

選択肢は次のとおりです。

【たびたび受けている、以前に受けたことがある、受けたことがない、言葉がわからない】

セクシュアル・ハラスメント 必須

選択してください



夫(妻)や恋人など身近な人からの身体的暴力 必須

(例)殴られたり蹴られたりした、刃物などを突きつけられた

選択してください



夫(妻)や恋人など身近な人からの精神的暴力 **必須**

(例)大声でとられた、「誰のおかげで生活できるのか」などと言われた

選択してください 

夫(妻)や恋人など身近な人からの性的暴力 **必須**

(例)嫌がるのに性的な行為を求められた、ポルノビデオや雑誌を無理やり見せられた

選択してください 

ストーカー行為 **必須**

選択してください 

Q 1 1 **必須**

あなたが受けた暴力行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

- 相談した
- 相談したかったが、できなかった
- 相談しようとは思わなかった
- 暴力行為を受けたことがない(Q10の5項目すべて「受けたことがない」「言葉がわからない」と回答した場合)

選択解除

Q 1 1で「相談した」と回答した場合

Q 1 2 **選択肢の結果によって入力条件が変わります**

あなたが相談した人や場所を教えてください。
あてはまるものをすべて選択してください。

- 家族・親戚
- 友人・知人
- 警察
- 行田市の相談窓口・電話相談など
- 行田市以外の公的機関
- 医師・カウンセラー
- 民生委員
- 人権擁護委員
- 弁護士
- その他

Q11で「相談したかったが、できなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答した場合

Q13 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あなたが誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。
あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。

- 誰に相談したらよいかわからなかったから
- 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 相談しても無駄だと思ったから
- 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 自分さえ我慢すれば何とかやっていたらと思ったから
- 世間体が悪いから
- 他人を巻き込みたくないから
- 自分に悪いところがあると思ったから
- 相談するほどのことではないと思ったから
- その他

選択解除

Q14 必須

性に関する理解をうながし、暴力の防止を図るために、どのようなことに取り組む必要があるとお考えですか。
あなたが最も必要だと思うものをお答えください。

- 学校教育の充実
- 家庭教育の充実
- 行政による学習機会の提供
- 被害者相談や加害者へのカウンセリングの充実
- 性犯罪の取り締まりの強化
- TVやインターネットなどのメディアの適切な利用方法の学習機会の提供
- その他

- わからない

選択解除

【人権について】

Q15 必須

あなたは「LGBT」という言葉について、ご存知ですか。

- 言葉の意味を知っている
- 聞いたことはあるが、言葉の意味まではよくわからない
- 聞いたことがない

選択解除

Q16 必須

社会の中で、性的少数者に対して、配慮がされていると思いますか。

- 十分に配慮されている
- 配慮されていると思う時がある
- まったく配慮されていない

選択解除

【男女共同参画の推進について】

Q17 必須

男女共同参画を推進していくために、今後、市はどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 広報紙やパンフレット等による男女共同参画についての啓発活動
- 講演会や講座など、男女共同参画についての学習機会の充実
- 学校での男女共同参画に関する教育の充実
- 審議会等委員など政策方針決定過程への女性の積極的登用
- 職場における男女の均等な取り扱いに関する企業等への働きかけ
- 保育園・学童保育室など子育てサービスの充実
- 高齢者や障がい者に対する介護サービスの充実
- リモートワークなど多様な働き方の周知
- 就労情報の提供や職業訓練の充実
- 性の多様性についての啓発や学習機会の充実
- 女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組の強化
- DV被害者等の相談事業の充実
- 各種団体などの女性リーダーの養成
- その他

【あなた自身について】

Q18 必須

あなたの性別を選択してください。

- 女
- 男
- その他/回答しない

選択解除

Q 1 9 必須

あなたの年齢を選択してください。

- 17歳以下
- 18～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～69歳
- 70歳以上

選択解除

Q 2 0 必須

あなたは行田市在住ですか。

- はい
- いいえ

選択解除

Q 2 1 必須

あなたの職業を選択してください。

- 職業を持っていない(専業主婦、専業主夫、無職等)
- 学生
- 会社員、団体職員
- 公務員、教職員
- 自営業
- パート、アルバイト、派遣社員、内職等
- その他

選択解除

Q 2 1で「職業は持っていない(専業主婦、専業主夫、無職等)」と回答した場合**Q 2 2 選択肢の結果によって入力条件が変わります**

就労していない理由を選択してください。

- 出産・育児のため
- 介護のため
- 自分に合う仕事が見つからない
- 定年のため
- 健康上の理由のため
- 特に就労しようとは思わない
- その他

選択解除

Q 2 3 必須

あなたは結婚していますか。

- 結婚している
- 結婚していないがパートナーと暮らしている
- 離別
- 死別
- 未婚

選択解除

Q 2 3 で「結婚している」「結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答した場合

Q 2 4 選択肢の結果によって入力条件が変わります

配偶者またはパートナーの職業を選択してください。

- 職業を持っていない(専業主婦、専業主夫、無職等)
- 会社員、団体職員
- 公務員、教職員
- 自営業
- パート、アルバイト、派遣社員、内職等
- その他

選択解除

Q 2 5 必須

あなたの世帯を選択してください。

- 1人暮らし
- 夫妻のみ・本人とパートナーのみ
- 2世代世帯【自分(夫妻)と子ども、自分(夫妻)と親 など】
- 3世代世帯【親と自分(夫妻)と子ども、自分(夫妻)と子どもと孫 など】
- その他

選択解除

ご協力ありがとうございました。

男女共同参画に関するWEBアンケート調査報告書
令和7年1月

行田市人権・男女共同参画推進課
〒361-0032
埼玉県行田市佐間3丁目23番6号
電話 048-556-9301
メール viva@city.gyoda.lg.jp